令和7年度　　園評価書

園番号　13　　園名　服織中央こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
丈夫な体と 豊かな心の子	わくわくが いっぱい！！ ～つたえる・ つながる・ もっとあそぼう！ ～	一人一人のよさを認められることで安心して自分の思いを表現し、わくわくしながら意欲的に遊ぶ	肯定的な声掛けや安心感をもち過ごすことのできる環境の中で、思いを表現し受け止められたり共感してもらったりすることで、やりたいことを見つけ興味関心をもち意欲的に遊ぶ姿が見られている	A	A	・元気な子が多く、園庭で遊んでいる姿はとてものびのびしている。夢中になる、没頭する体験が子どもの心と体を育てているのだと思う ・何かあった時は話を聞き、思いを受け止め、安心できる環境を整えていることで興味関心をもって遊ぶことができている ・興味をもったことなどを大切にして指導しているのが良いと思う。「○○ができるようになりたい」と目標をもって取り組む姿があり、わくわくにつながっていると感じる ・環境の見直しを定期的にしている ・雨天の日、室内での遊びの充実もあるといいと思う	・保育者も一緒に遊ぶ中で、子どもが興味をもっていることに気付きどこに面白さを感じているのかを見取ったり、一人一人の良さを認めたりしながら受け止められる安心感をもちながら自分を表現できるように関わっていく ・自分の思いを表現する姿を十分受け止め、友達と関わり思いを共有しようとする姿を認め、必要に応じて仲介しながら、友達と関わる楽しさを十分味わえるようにしていく ・日々変化する子どもの育ちを考え、子どもの興味関心や要求に合っているか環境を常に考え、見直していき、「やってみたい」という環境作りをしていく
		遊びの楽しさや面白さを保育者や友達と共有し、遊びが広がっている	一人一人が遊びに満足することで、伝えたい、教えたいという周りへの関心に広がっている。また保育者が遊びの仲介をしたり、振り返りで遊びの楽しさを共有する機会を設けたりすることで、友達と遊びを進めていく姿が見られている	A	A		
		活動意欲が満たされる環境のもと、様々なことに興味関心をもち自ら関わったり探求したりしながら遊びを深めている	園庭の玩具の置き方を見直したり環境改善を行ったりしたことで子どもが自ら試したり工夫したりしながら遊びに向かう姿が見られている。また遊びが継続したり目標をもち根気よく取り組んだりする姿が増えている	A	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の発達や育ちを把握し、職員間で共有しながら、発達の連続性を考慮し６年間の育ちを意識した教育・保育を行っている	園内研修や職員会議でクラスの様子や個の様子等、子どもの様子や育ち・関わり方や改善点を話し合い職員間で共有している。継続して行うことで実際の子どもの姿を照らし合わせることができ、普段の中での子どもの姿を共有できる場面が増えている	B	A	・クラス担任だけでなく、他の先生から子どものことを話してもらう機会があり職員間の情報の共有が行われていることを感じている ・送迎時、子どもの様子を確認してくれており、生活リズム等への相談もしっかり対応してくれるなど保護者とのコミュニケーションが取れている ・気づかず見過ごしてしまいそうな小さなわくわくを子ども目線で考えてくれていると思う。興味関心をもったことに先生が寄り添って一緒に考えたりやってくれた、と子どもから聞くこともある ・ヒヤリハットが少ないとのことだが、実際怪我を０にすることは難しい。遊びの制限をするのではなく、発達を捉えながら遊びの中で色々な挑戦をし、様々な経験ができるようにしていく必要があると思う ・園でも避難訓練、引き渡し訓練を行っていて、小学校でも引き渡し訓練を行っているが、違う日に行っている。実際災害は同時に来るので、保護者がお子さんを迎えに行く時、どのような経路で行くのかを考えると、同じ日に行う機会があっても良いのではないかとも思う ・今年度行った減災教育を行ったことで防災意識がより高まったのではないかと思う ・園庭で野菜や花の栽培を行っており、家庭でなかなか経験しない子もいるので園での経験でき、食育としても家庭につながっていくことはいいことだと思う ・保護者への発信が、どこまで家庭に伝わっているのか。ICTにばかり頼るのではなく対面での会話を大切にしていく必要がある ・玄関ボードへの掲示やICTを使った配信は、自分の子だけでなく、友達の様子も知ることができ、他の保護者との会話でお互いのお子さんについて話題にできていいと思う ・小学校との職員の交流連携についてはコミュニティスクールの一環として少しずつ広げていけたらいいのではないかくコミュニティスクール研修会への参加等） ・近隣園、小学校との交流を通して就学に向けての経験、新しい友達ができ就学への不安の軽減、期待へとつながるので今後も回数を増やすなどしながら継続していってほしい ・子どもたちが楽しみにしていた中、暑さで環境学習ができなかったのは残念だった。また散歩に出る機会も少なくなっていることを感じた。気候が変わってきている中で行事を行っていく際、時期をずらすなど検討が必要になってきていることを感じる ・防災面、安全面、また地域との連携のことなど、園の要望があったら自治会長さんを通し行ってほしい	各クラスの姿や子どもの様子を職員会議の議題の一つとして取り上げ、全体での共有を引き続き行っていく。また異年齢での交流やつながり等、関わる機会や環境を意図的に設け、連携を図っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	朝の受け入れを丁寧に行い、個々の健康状態や生活リズムに合わせて関わっている	受け入れ時に保護者とのコミュニケーションを十分とり、子どもの様子を丁寧に見ている。またコドモン連絡や園から伝えること・家庭から来た連絡ごとに色分けされた早遅番の伝達ファイルを活用しながら、各々の体調や生活リズムに合わせた関わりをしている	A	A		職員各々が保護者との信頼関係を大切にしながらコミュニケーションとり、一人一人の子どもに対して丁寧に関わるよう心掛けていく。また、生活リズムについては家庭の協力は必要なので発信していく方法を考えていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	「おもしろそう」「もっとやりたい」気持ちに寄り添い、興味関心に応じた環境を構成している	子どもが何にわくわくしているかを見取り、一人一人の思いに寄り添い保育者も一緒に楽しんだり遊びに合わせた環境構成をする中で試行錯誤し、子どものわくわくを引き出せるよう環境構成を考え準備している	B	B		・子どもの発達や遊びに合ったに環境構成をし、保育の中で再構成や振り返りからの環境の見直し等現状に満足することなく改善していく。また玩具等の置き方を、子どもが取り出しやすく片付けやすいように設定していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	安全面を意識して環境の点検や見直しを行い、子どもが安心してやりたい遊びを楽しむことができるような環境になっている	安全チェックリストの活用や生活の中で玩具等の確認をしてすぐに対応している。またヒヤリハットについて昼の打ち合わせ時に共有したり掲示したりすることにより危険回避に対する職員の意識も高まった。また今年度減災教育を実践したことにより防災に対し意識が高まっている	A	A		引き続き危険箇所や物に気が付いた時に直ぐに改善し安全に配慮していく。また事故になる前に危険を感じたら職員間での共有をする意識をもち、ヒヤリハット等で知らせる習慣を全職員で周知し実践していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食育活動や食育だよりを通して、「楽しく食べること」の大切さを子どもや保護者に伝えている	給食の時間に栄養士がクラスを回って子どもが食べる様子を見たり食材に興味をもったりできるようにしている。また月一回の食育の日の活動を行い保護者にボードで知らせたりや食育だより等で食の楽しさや知識を伝えたりしている	A	A		日々の食事の時間で楽しさを共有したり身近な食材を育てクッキングしたりして、食に興味をもてる体験を積み重ねていく。また引き続き、食事のマナーや食に関する知識、子どもへの伝え方を保護者と共有していく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の特性に応じた支援方法を検討し、共通理解のもとで支援をしたり、園全体で学び合ったりしながら支援の質を高めている	継続的な専門機関との連携や他職員との話し合いによりサポートの引き出しを増やしたり、支援児の理解を深めたりした。園内研修や職員会議では子どもの様子を伝えてアドバイスをもらったり学び合えるようにしている。また外部講師のアドバイスをもらいより良い支援につながっている	B	A		・年間の予定をたて、サポートプランについて検討したり担当者会議や職員会議でケース検討を行い一人一人の姿を多角的に捉え支援の仕方を確認し、どの保育者でも理解し同じ対応ができるように情報共有する
5 組織運営	(1)組織体制の充実	乳児、幼児会議、職員会議、担当者会議等の情報を職員で共有し、連携を取り合いながら教育・保育を進めている	会議内容を記録し職員全体に共有している。また会議を短い時間で効率よく進めるようになってきている。一方で紙面や研修の掲示物のみだと全ては伝わりにくく内容が伝達・共有できていないことがある	B	B		口頭伝達の場や職員会議の共有方法を見直し円滑な伝達を実行し、日常の生活や保育の中で伝達、共有、確認し合うことを意識し、園全体で行事や保育を進めていく意識をもつことでより良い保育につなげていく
6 研　修	(1)研修体制の充実	「もっとやりたい」とわくわくして遊ぶ姿を見取り、やってみたくなるような発信の仕方や環境構成について分析した教育・保育を進めている	園内研修で、遊びの中にあるわくわくはどこにあるのかを見取るところに立ち返り、わくわくを感じているのはどうしてか、そこからどう“もっと”につなげていけるか考え話し合い環境構成に活かしていった。また多くの職員が園内研修に参加し学ぶことで共通理解ができるようにしている	B	B		子どもと一緒に遊ぶ中で保育者が気づいたわくわくポイントに対し、職員全体で多角的に子どもの姿を捉え、保育者の関わりの仕方等を話し合い学ぶことで、次の保育に活かせるよう園内研修を行っていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの思いの実現ができるよう、子どもの遊びに合った教材・素材を選んだり、提供の仕方や発信の仕方を考えたりしている	子どもの“こうしたい”という思いに寄り添い、興味関心のあること・遊びを広げるにはどのような教材・素材が必要か考え提供できるように考え実践している。園内研修として職員がクラスをまわり環境をみて、その場で意見を出し合うことで具体的な改善策を考え実践したりしている	B	B		保育の中で保育者も一緒に遊びながら、使い方を知らせたり物を出すタイミングや必要な物を選びとれる環境を考え用意したりしていく。また計画的に職員全体で環境について話し合う、改善していく機会をもつ
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園での取り組みの可視化やICTでの発信をしたり、送迎時に積極的に保護者に声を掛けたりして、子どもの育ちを共有している	保護者参加行事（保育説明会・参加会、懇談会等）の実施を通して子どもの育ちを見てもらうようにしたり、日々のコドモンでの配信や送迎時に子どもたち一人一人の成長を丁寧に伝えるように心がけてることで保護者と子どもたちの成長が共有できている	A	A		引き続き保護者参加行事で子どもの姿を共有すると共に、送迎時に保護者に声を掛け子どもの育ちを共有できるようにしていく。またドキュメンテーション等で子どもの育ちが十分伝えられるよう内容の充実を図っていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小学校との接続について考え、研修だよりやドキュメンテーション等を通して園での取り組みを小学校に発信したり、散歩で訪問したりしながら連携をとっている	職員が小学校の授業参観や研修に参加し、小学校への理解を深める機会をもつことができている。また年長児は小学校訪問を計画し実施している。近隣園については計画し交流を行うことができている（服織こども園・あおいガーデンなど）	B	A		小学校と連絡を取り、校庭で遊ばせてもらったり授業や休み時間の様子をみる機会をもつようにする。また近隣園同士連携を取り子ども同士の交流をしたり小学校との接続がスムーズにできるようにしたりしていく
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	年間を通して計画的に園外保育に出掛け地域の自然に触れる機会を設けたり、子育て支援センター来園者や地域の方々と交流したりし地域に愛着をもてるようにしている	散歩に行くことを楽しみ、自然に触れたり地域の方と挨拶する等コミュニケーションをとったりする機会となっている。また茶畑を持つ地域の方からお茶摘み体験をさせていただき地域の自然に触れることもできた。支援センターを通じて年長児は地域の親子と交流を図っている	A	A		何を学びたいのか、経験していきたいのかを考え、計画的に園外保育に出かける機会をもち、地域の自然や人と触れ合ったり、歴史に触れたりする機会を増やしていく